



HokkaiGakuen Institute for  
Northeast Asia Studies

# HINAS Newsletter

北東亜消息

2016.3 No.190

## 【INFORMATION】

### ・HINASへの来訪者

\*平成 28 年 1 月 30～2 月 3 日、来札

中国社会科学院世界経済与政治研究所から次の通り。

所長 張宇燕 (ZHANG YUYAN)

副所長 王徳迅 (WANG DEXUN) ※都合により 2 月 2 日に東京へ行く。

所長助理 宋泓 (SONG HONG)

研究員 高海紅 (GAO HAIHONG)

研究員 李東燕 (LI DONGYAN)

副研究員 黄薇 (HUANG WEI)

HINAS と HIECC (ハイエック: 公益社団法人北海道国際交流・協力総合センター) とで共催で進める中国・北海道経済交流会議 特別セミナーに、講演者及びコメントとして来訪。

プログラムは次の通り。

## 中国・北海道経済交流会議 特別セミナー

### 中国の新たな発展戦略～

### 『一帯一路』と『アジアインフラ投資銀行(AIIB)』

日 時: 2016年2月1日(月) 13:30 ~ 17:30  
(出席者交流会 18:00 ~ 19:30)

会 場: 北海学園国際会議場 (札幌市豊平区旭町4丁目1-40)

主催： 北海学園北東アジア研究交流センター（HINAS）  
公益社団法人 北海道国際交流・協力総合センター（HIECC）  
中国社会科学院世界経済・政治研究所（IWEPP）  
後援： 北海道 札幌市 中華人民共和国駐札幌総領事館  
北海道経済連合会 北海道商工会議所連合会 北海道経済同友会  
北海道日中友好協会

## <プログラム>

- ◆ 開 会 13:30～  
主催者代表挨拶： 森本 正夫 学校法人北海学園理事長  
北海学園北東アジア研究交流センター センター長  
公益社団法人 北海道国際交流・協力総合センター 理事
- 来賓挨拶： 孫 振勇 中華人民共和国駐札幌総領事 様
- ◆ 講 演 13:40～
- (1) 基調講演 「中国の新たな発展戦略、『一带一路』の意義、推進、挑戦」  
張 宇燕 中国社会科学院 世界経済・政治研究所(IWEP) 所長
- (2) 講演① 「一带一路戦略と中国の対外貿易」  
宋 泓 中国社会科学院 世界経済・政治研究所 所長助理 研究員
- (3) 講演② 「一带一路政策とインフラ投資」  
黄 薇 中国社会科学院 世界経済・政治研究所  
グローバル・ガバナンス研究室 主任 副研究員
- (4) 他の研究員のコメントと質疑応答  
コメント：中国社会科学院世界経済・政治研究所研究員 高 海紅、李 東燕  
コーディネーター：西川 博史 北海商科大学教授
- ◆ 閉 会 挨拶：越前雅裕 公益社団法人北海道国際交流・協力総合センター  
副会長兼専務理事 17:30
- ◆ 交流会（会費制） 18:00～

## 中国社会科学院訪日団メンバー

団長	張 宇燕（チョウ・ウエン）	世界経済・政治研究所	所長 研究員
	宋 泓（ソウ・コウ）	世界経済・政治研究所	所長助理 研究員
	高 海紅（コウ・カイコウ）	世界経済・政治研究所	国際金融研究室 研究員
	李 東燕（リ・トウエン）	世界経済・政治研究所	グローバル・ガバナンス研究室教授 研究員
	黄 薇（オウ・ビ）	世界経済・政治研究所	グローバル・ガバナンス研究室主任 副研究員







## 《概要》

- 中国・北海道経済交流会議 特別セミナーは、プログラムにそって順調に推移した。  
まず主催者を代表して学校法人北海学園の森本理事長が開催の挨拶をした。  
中国社会科学院に対するお礼、参加者に対するお礼、そして在札幌中華人民共和国の孫振勇総領事への感謝、で始まり、前回の会議から1年半たった今、中国の新たな発展戦略として話題の「一带一路」や「アジアインフラ投資銀行 (AIIB)」に対する理解を深め、北海道との経済交流がますます盛んになる事を期待して挨拶をした。
- 続いて在札幌中華人民共和国の孫振勇総領事が挨拶。  
主催者や関係者への御礼・感謝に併せて、中国が進めている一带一路やAIIBについての基本的な考えを説明し、挨拶をした。
- その後講演に進み、中国社会科学院世界経済・政治研究所の張宇燕所長の基調講演として「中国の新たな発展戦略、『一带一路』の意義・推進・挑戦」を説明、次に宋泓所長助理の「一带一路戦略と中国の対外貿易」の説明、3番目に黄薇主任の「一带一路政策とインフラ投資」の説明、最後に質疑応答があった。
- 質疑応答では、北海商科大学の西川博史教授のコーディネートにより質問者から内容の深い質問が何件もあり1時間半を超える時間を要したことや、別件でたまたま来札していた中国社会科学院の王徳迅副所長からの挨拶やこれまでの経緯及び自分の意見など披露することがあった。
- 特別セミナーは、主催者である公益社団法人北海道国際交流・協力総合センターの副会長兼専務理事である越前雅裕氏が閉会の挨拶を行い、無事に18時前に終了し、18時から関係者のみで交流会を持った。
- 交流会では、浦本元人氏（北海道知事室長）や森昌弘氏（北海道経済連合会専務理事）からの挨拶で始まり、日本語や中国語を交えての会談が続いた。旧交を温める事や次回の中国・北海道経済交流会議でのテーマの問題など話が広がった。最後に中国・北海道経済交流会議の第1回目から参加している元北太平洋地域研究センターの専務理事だった松江氏が中締め挨拶を行い、無事に20時近くで終了した。
- なお参考までに、2016年3月号の月刊誌「財界さっぽろ」にも本件の記事が掲載されていることを紹介する。

## 【中国ニュースの紹介】

### (1) 第二子はどちらの姓にするか？中国の一部家庭の悩みに

2014年10月、浙江省の裁判所で第二子の姓が原因で離婚訴訟の審理が行われたが、最終的には和解

したという事があった。そもそも中国では夫婦別姓で子供は父親の姓を名乗るとというのが普通だが、一人っ子同士の夫婦については第二子の出産が認められ、子供に夫婦それぞれの別の姓を付ける家庭が多くなり、第二子の姓を付ける権利を母親側が持つようになった。しかし地域の違いや夫の親と妻の親の考え方の違いで2人目の子供を設ける事が先延ばしになっているケースもある。また子供が成長していく間に父親と母親の両親が孫に対する愛情に偏りが出てくる場合も心配となっている。

現在、第二子を出産する多くの家庭が子供の戸惑いを少なくするため、一部の家庭で母方と父方を区別するこれまでの呼び方をやめ、どちらも同じように「おじいちゃん、おばあちゃん」と呼ぶようにしており、「夫婦それぞれの別の姓を付ける」やり方を選択している。子供に別の姓を付けることの不安を我々は深く考えるべきであり、第二子の「姓を付ける権利」で感情が傷つけられ、家庭の調和が崩れるなら、大切な子供の成長環境からは本末転倒だ。どちらの姓を付けるかよりも家庭円満や子供の健全な成長の方がはるかに大切で、結婚前あるいは第二子を産む前に良く話し合い、仲睦まじい関係を壊さないようにすべきだと、結婚や恋愛についての専門家は指摘している。

## **(2) 越境EC（電子商取引）向け外貨決済が激増 今年1～8月**

中国国家外為管理局のデータで2015年1～8月だけでも、中国の越境ECは昨年の2.2倍に達しており、好調な越境ECによる外貨決済業務が爆発的に増えている。オンライン決済サービス「財付通（テンペイ）」国際業務担当者の説明によれば、多くの海外の業者が中国市場に進出し、同社のオンライン決済を利用する海外の業者は1000社近くにのぼり、益々便利になり、ECサイトで買い物をする中国人消費者が増えているとのこと。

越境EC業者の発展とECサイト利用者のニーズに応えるため、為替管理局は「支付宝」、「財付通」など複数の第三者決済機関を試験的に決済事業者として登録し、2015年1月にこの業務を全国に拡大し、1回の注文で取引できる限度額を5万ドル相当まで広げた。

為替管理局総合局の王充貴司長は、8月末現在全国26社の決済機関が越境EC外貨決済事業者に加わり、取引額が51億9000万ドルに達して、3月以降1カ月あたりの越境ECの取引金額は6カ月連続で3億ドルを超え、現在多くの決済機関が登録のため続々と当局に申請しており、今回の試験に対する意欲は大きいと説明した。

## **(3) 銀聯の海外引き出しに年間限度額 1人当たり10万円**

中国銀聯の資料によると、銀聯カードは2015年中間期ですでに海外150余りの国・地域で使用されて、主要観光目的地のデパート、ホテル、景勝地、スーパー、飲食店などで日常的な消費をする商業施設で誓えるようになっているとのことから、中国国家外為管理局（外為局）は海外でのマレーロンダリングを防ぐ目的で、銀聯カードでの海外引き出し額を2016年1月よりカード1枚当たり年間引出額の累計を10万円（1元＝約19円）を超えないように制限を設けた。

ある商業銀行のクレジットカードセンターからは、中国の個人で1人当たりの年間外貨購入・支払は5万ドルを超えてはならないものの、海外のATMで銀行カードを使って現金でドルを引き出せばこの制限を受けずに済むことから、外為局は為替市場の安定化と資本の流出圧力の緩和のためとしているとも説明している。

また外為局は、一部の銀聯カード所持者が海外で頻繁に高額引出が見られることから、2015年10月～12月の3か月間、カード1枚当たり累計引出額を5万円までとしたり、違反者は注意リストに載り海外での継続的現金引き出しを禁止するとしている。

#### (4) 中国都市化推進の新たな試み「両区同建」

中国山東省では近年「両区同建」、すなわち農村での「社区（団地）」建設と「産業園区（産業パーク）」建設を同時に進める新しいタイプの都市化モデルを徐々に推進している。これは農民を団地に住ませ、その近くの産業パークで働くようにすることで、生産・生活様式を同時に変化させ、「都市居住者の生活」を送れるようにするというもの。

これにより、山東省での村民は住宅が改善（例えばトイレが水洗式となって蚊や蠅が見かけなくなる）されただけでなく収入も増えた（団地に住み、近くで働き、生活は都市と変わらない）。5年前では臨沂沂臨港区は純農業区だったが、今では近代的産業と新しい町ができている。

しかしこのモデルもいくつかの新しい問題に直面している。例えば都市化プロセスによる恩恵の反面、家の近くで野菜を栽培したり、鶏などを育てたりすることができなくなったことなどに不満を持っている。ほかにも、一部の農民にとって住宅購入の経済的圧迫が比較的大きいことも関心を集めている。

これらの問題点に対して、中国の新しいタイプの都市と農村が一体となった発展を統一的に計画し、公共サービスと末端のカバナンスシステムを充実させ、「建物の都市化」だけでなく、「人の都市化」も実現するようにしなければならないと多くの専門家は提言している。

#### (5) 銀聯カードの銀行間取引総額6400億元超

中国銀聯は2015年10月8日に、今年の日慶節大型連休期間（10月1日～7日）における銀聯カードの消費データを発表した。それによると銀聯カードの銀行間取引総額は6469億元（1元＝約19円）に達し、取引総件数は5億件を超え、それぞれ前年同期に比べ25.4%と19.5%増えたと述べた。

中国銀聯データアナリストの陳漢氏は、中秋節（9月27日）と日慶節を控え、超大型連休を組む人が少なく、カードの消費データにも若干の変化が現れることが予想されたが、①日慶節当日は休日消費が最も旺盛で1日当たりの休日取引額が最高の伸びを示すこと、②長い休暇を利用して旅行に出かけようとする人が増え、今年日慶節によその土地でカードを使った人の数は前年より41%多かったことで、これはカード利用者全体の伸びの2倍余となると、述べた。

各業種の消費データから見ると、日慶節の大型連休期間中消費金額が最も高かったのはショッピング（スーパー、大型家電、日用雑貨）である。旅行・外出時のカード決済データによれば、大型連休期間中、道路、鉄道、航空関連のカード決済金額の合計は昨年同期比70%増だった。また全国の旅行社と観光地のチケット販売でのカード決済金額は41%増だった。海外でのカード利用を見ると、中国人観光客に最も人気があるのは、日本、韓国、タイを中心とする近場の旅行地である。また中秋節、日慶節のダブル休日効果に加え、欧米地域で銀聯カード受け入れ環境が整ったことから、欧州主要各国の取引量も大幅に伸びている。

(以上、典拠は中国通信)

北海学園北東アジア研究交流センター[HINAS ハイナス]

〒062-8607 札幌市豊平区豊平6条6丁目 北海商科大学

TEL : 011-841-1108 FAX : 011-841-1109

<http://www.hokkai.ac.jp/hinas> E-mail: [hinas@hokkai.ac.jp](mailto:hinas@hokkai.ac.jp)